

平成26年度

学校評価(2)

- ・学年部(Ⅰ) (P1 ~ P3)
- ・校務分掌(Ⅱ) (P4 ~ P11)
- ・教科(Ⅲ) (P12 ~ P21)

秋田県立雄物川高等学校

評価領域	I① 1年部
------	--------

重点目標	高校生として自分の行動に責任を持ち、規律ある生活習慣と豊かな心を持つ生徒の育成
------	---

現 状	素直で積極的に行動する生徒が多い。基礎基本事項の定着度にばらつきがみられる。
-----	--

具体的な目標	①正しい判断力と正義感をもって自ら進んで行動する姿勢を持たせる。 ②向上心をもって目標・課題を設定し、積極的に学習に取り組む姿勢を向上させる。 ③他人を思いやる心と協力する姿勢を向上させる。
--------	---

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・気になる行動はその場で注意し、改善させるとともに職員間で情報を共有し、共通理解を図る。 ・業務の分担を図り、協力体制を確立する。 ・良い点、がんばった点など、小さな前進を評価する。 ・様々な機会に面談を実施する。 ・パスカルタイムやLHRを活用し、自己評価の機会を設ける。
------------	---

具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・整容や私物の整理整頓などを指導した。 ・朝学習時、昼休み、休み時間、放課後の校内巡視を実施した。 ・長期休業中や土曜日の補習を実施した。 ・土曜日、考査前の成績不振者への学習指導を行った。 ・職員間の共通理解のもと機会を捉えて指導をくり返した。 ・機会をみて面談を行うことができた。 ・パスカルタイムやLHRを活用した。
------------	---

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導的な場面が多く、学習など生徒の良い面を伸ばしきれていない状況である。 ・家庭からの連絡に丁寧に対応し生徒、保護者、職員的意思疎通を図ることができた。 正しい判断力を身につけようとする意識が高まってきたように思われる。
------	---

自己評価	<table border="1"> <tr> <td>(評価) B</td> <td>(根拠) 補習や自学など生徒の良い面の評価が少し足りなかった。職員間の共通理解のもと指導が継続されているが、目標の達成には至っていない</td> </tr> </table>	(評価) B	(根拠) 補習や自学など生徒の良い面の評価が少し足りなかった。職員間の共通理解のもと指導が継続されているが、目標の達成には至っていない
(評価) B	(根拠) 補習や自学など生徒の良い面の評価が少し足りなかった。職員間の共通理解のもと指導が継続されているが、目標の達成には至っていない		

評価基準 A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	<table border="1"> <tr> <td>(評価) A</td> <td>(意見) 1年部職員が学年部における共通理解のもと指導されているようなので、1年生の今後は期待できる。2年生になればまた別の指導方法があると思うので今後も頑張ってもらいたい。</td> </tr> </table>	(評価) A	(意見) 1年部職員が学年部における共通理解のもと指導されているようなので、1年生の今後は期待できる。2年生になればまた別の指導方法があると思うので今後も頑張ってもらいたい。
(評価) A	(意見) 1年部職員が学年部における共通理解のもと指導されているようなので、1年生の今後は期待できる。2年生になればまた別の指導方法があると思うので今後も頑張ってもらいたい。		

上記に基づいた改善策	上級生となることや進路を意識させること、また小さなことから達成感を持たせて行くことに気を配り、職員間の共通理解のもと指導を継続したい。春季休業中の生活をしっかりおくらせて新学期に備えたい。
------------	--

評価領域	I② 2年部
------	--------

重点目標	進路実現を見据えた学力向上をめざし、計画的、継続的、主体的に学習や課外活動に取り組む生徒の育成。	
現 状	好奇心が旺盛で、授業中も活発に発言する生徒が多い。部活動にも意欲的に参加し、学校生活を楽しむことができる。得意なことには積極的に向かうが、苦手なことについては消極的で、指示待ちになりがちである。進路研究がなかなか進まない。	
具体的な目標	①正しい判断力と正義感をもって積極的に行動する姿勢を身につけさせる。 ②自ら課題を発見し、その解決に向けて積極的に学習に取り組む姿勢を向上させる。 ③学校生活を通して、他人を思いやる心と協力する姿勢を向上させる。 ④進路目標を具体化させる。	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・学年部職員が共通の認識で指導する。 ・きちんとした態度で朝学習や授業に参加させ、さらに家庭学習を充実させて、学力を向上させる。 ・部活動の顧問と連絡を密にして、連携して指導する。 ・進路に関わる情報を提示する。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学年部会等で共通認識を図ったが、細かなところまで徹底できない場面が多くあった。 ・一部で授業態度や朝学習への取り組みに対する指導が徹底されなかった。 ・私物の管理が苦手な生徒への指導が徹底できず、教室が雑然としている部分もあった。 ・検定対策は教科の補習なども行っていただき、合格に向けての意識を高める事ができた。 ・部活動の顧問と連絡を密にして、放課後補習等が連携して指導することができた。 ・進路関係の講話やガイダンス、企業見学、インターンシップ等を通して進路に対する意識が高まった。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい判断力と正義感は考えとしては持ちつつも、集団に流され、学年全体として向上しようという意識がまだ低い。しかし、基本的な生活習慣を学校生活を軸に構築しようとする姿勢ができてつつある。 ・自己理解の不足や、学力向上に難航している状況のため進路目標を具体化させる事ができずにいる生徒が数名いる。 	
自己評価	(評価) B	(根拠) 自発性、自主性を尊重したい指導者側と、集団の中で積極的に行動しようとする意識が育っていない生徒の意識のずれを埋める事ができなかった。
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 教室が整理整頓されていて、昨年の反省が見られる。授業風景からも、もうすぐ最高学年になるという自覚ができてきているようにも見える。
上記に基づいた改善策	物の整理・整頓、授業プリントのファイリング等を継続指導し常態化させて新年度を迎える。集団の一員としての自覚と責任のもとに個人の進路目標達成のために学習習慣を継続させる。	

評価領域	I ③ 3年部
------	---------

重点目標	最高学年としての自覚と責任を持ち、進路実現に向けて努力する生徒の育成。	
現 状	パスカルタイム等を通して進路意識は高まりつつあるが、まだ取り組みには甘さがある。コミュニケーション能力に問題を抱える生徒も少なからずいる。	
具体的な目標	①進路実現に向け、継続的・計画的な学習を通して学力を伸ばさせる。 ②社会の一員として通用する基本的な生活習慣を定着させる。 ③学校行事や部活動を通して、明るく素直な心、他人を思いやる心を持たせる。	
目標達成のための方策	①授業への取り組みの改善、朝学習、土曜学習、週末課題、長期休業中の補習により、学力の向上を図る。 ②学年部職員の共通認識のもと、服装、言葉遣い、時間厳守等の生活指導を継続して行う。 ③模試等を効果的に活用し、全国レベルでの学力を意識させる。	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自学ノート、朝学習、週末課題、長期休業中の補習などを通して基礎力を身につけさせた。 ・ 学年部職員が共通認識をもって整容検査で服装、頭髪等の指導を実施した。 ・ 進学模試、就職模試、看護模試、公務員模試を実施した。 	
達成状況	3年生になり進路意識が高まるとともに補習や課題学習に積極的に取り組むようになった。運動会や文化祭等の学校行事でも最上級生らしく積極的に取り組んだ。	
自己評価	(評価) A	(根拠) ほとんどの生徒が早期に進路が決定した。
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) ほとんどの生徒が早期に進路が決定したのは、素晴らしい。3年部をはじめとする全職員が一丸となって生徒の仕上げを行ってくれた。
上記に基づいた改善策	生徒・保護者のニーズに対応できるように早期から進路意識を高めるように継続して努力する。	

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の連携を強力に後押しし、各分掌等の目標達成を手助けする。 ・保護者や地域、外郭団体とのつながりを積極的に展開し、本校への理解を促す工夫をする。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方々に学校を見ていただく機会を大事にしている。 ・外郭団体（同窓会・振興会）との関わりを重視している。 ・ここ数年の保護者や地域、学校評議員による学校評価のシステムは、うまく機能していると思われる。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「登校時一声運動」（「朝のつどい」）について外部の方の参加者を、延べ人数100人程度をめざし、本校への理解を促す。 ・外郭団体（同窓会・振興会）と本校職員との相互理解を促すことにより、学校の活性化を図る。 ・保護者や地域へのアンケートを実施し、学校のあり方を模索できるようにする。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・「登校時一声運動」（「朝のつどい」）について、PTA総会や学年PTA、学年部報、あるいは部活動の親の会を通すなどして、保護者への参加の呼びかけを協力してもらう。 ・本校職員に対し、外郭団体との関わり的重要性を啓蒙する。 ・保護者や地域へのアンケートの集計結果を、職場内できちんと検討する。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「登校時一声運動」（「朝のつどい」）について、PTA総会や学年PTA、学年部報等で、保護者に対し参加の呼びかけを協力してもらった。 ・「登校時一声運動」に多くの職員の協力を得られた。 ・保護者や地域へのアンケートの集計結果を職場内できちんと検討し合い、次年度に生かす取り組みをした。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時一声運動における外部からの参加者は延べ人数で57人（昨年比-46）だった。 ・登校時一声運動に数多くの職員の協力が得られるとともに、生徒指導上の連携等に大いに役立てられた。 ・本校職員の外郭団体（同窓会・振興会）への出席率が低く、昨年に引き続き啓蒙が足りず反省している。 ・保護者や地域へのアンケートについては、計画通りスムーズにこなすことができた。 	
自己評価	(評価) B	(根拠) 登校時一声運動の参加者が激減し、手綱を引き締めしていく必要を感じる。部活動における親の会等に、粘り強く協力を求めるなどしたい。外郭団体の会への先生方の出席率の悪さは、タイミングの問題や先生方の仕事の忙しさにも起因する。外郭団体に対し、感謝の気持ちを表現する機会を設けたい。アンケート集計は、次年度に生かされているし、学校力のバロメーターとして十分機能している。
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 地域に開かれた学校づくりが認められる。職員も生徒も外部の人を受け入れようという様子が見られる。
上記に基づいた改善策	外部とのつながりを大事にすることは、小規模校にとっての生命線である。今後とも、地域から、そして外部の方々から評価される取り組みを、具体的に実行する必要がある。	

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校・地域との連携を深めるとともに、学校の活性化を図る。 ・生徒の学力向上を目指し、授業や教育課程の充実・工夫を図る。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の入学者選抜では、定員減にもかかわらず一般選抜終了段階で11名の定員割れであった。少子化が更に進む今後を見据え、生徒確保のための工夫がさらに必要である。 ・多様な進路希望の実現のため、基礎学力の定着を確実にし、さらに進路目標を達成するための学力向上を目標とする授業改善に取り組む必要がある。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中高連絡協議会や体験入学、高校説明会等を工夫し、より充実したものにする。 ・学力向上を目標とした授業改善に取り組み、生徒が意欲的・自主的に参加する授業の実現を目指す。 	
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> ①中高連絡協議会の内容や、各中学校に対する働きかけを工夫する。 ②体験入学や高校説明会の内容の充実を図り、また学校案内をより魅力的なものにする。 ③研修部と連携し、授業改善のための取り組みを強化する。 	
具体的な取り組み状況	<ol style="list-style-type: none"> ①第1回は1年生の授業参観・近況報告発表・情報交換会を実施したが、学年部からは情報交換会が非常に有益であったとの指摘があった。 ②高校説明会で使用するスライドを刷新し、より効果的なものが作れたと思う。体験入学は生徒・保護者合わせ109名の参加があり昨年度より参加人数は多くなった。 ③到達目標のシートも新しく作り、目標の提示・目標達成の評価等を重点項目としたが、徹底はできていない状況である。 	
達成状況	それぞれ工夫を加えながら取り組んでおり、目標達成が見込まれる。	
自己評価	(評価) B	(根拠) 体験入学では地元の中学生が減少している中、昨年度より多くの参加があり、高校説明会やHPでのアピールが功を奏しているように思う。ただ、中高連絡協議会も含め開催時期の検討は必要である。学力向上に関しては到達目標も明示の徹底がもう少しなされなければいけない。さらなる授業改善への取り組みが必要である。
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 総務と教務の関係が柔軟に対応できている。中高連絡協議会で、いかにアピールができるかが大事になってくるのでプレゼン能力を磨くなどしてほしい。
上記に基づいた改善策	引き続き各分掌・部門と連携し、スムーズな運営を実行したい。今年度高校説明会のプレゼン資料を新しくしたが、更に工夫・改善を加え生徒募集に関して、今年度同様に定員確保を目指したい。	

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員の共通理解の下に、正しい生活習慣を身につけた、心豊かな人間を育成する。 ・生徒の生活全般にわたる状況理解に努め、高校生活に適応できるよう支援する。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・心身に問題を抱えた生徒が多数いる。病的、障害等の生徒については多少、周囲への影響がある。 ・家庭環境に問題を抱えた生徒が多く、基本的な生活習慣に課題のある生徒がいる。また、それに伴う問題行動が心配される生徒がいる。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・整容指導、校門指導、つどいを中心とした遅刻指導や挨拶指導などを通し、また家庭や地域とさらに連携を深め、生活の乱れや問題行動による退学者を出さない。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、副担任が常に教室に出向き、生徒とのコミュニケーションを図り、また定期的に面接を行う。 ・校門指導やつどいなどを通して、常に多くの職員が日常的に生徒との対話に努める。 ・生活に関するアンケートの年2回実施。問題には素早く対応する。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活に関する内容やいじめのアンケート実施 ・整容指導 ・校門指導 ・遅刻指導 ・挨拶指導 ・外部講師を招いての交通安全講話の実施 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事故はあったものの、普段の担任や学年の生徒指導のおかげで、多くの生徒は概ね落ち着いた生活を送れた。生徒の日常生活のトラブルにも、教師と生徒との日常的な信頼関係があり、整然と対処できた。指導部としての年間計画は遂行できたと思う。 	
自己評価	(評価) B	(根拠) 事故件数5件、処分者4名という例年のない数字を出してしまった。様々な生徒がいる中、想定外の事故も考えられる。もう一度、学校改革の原点に戻り、緊張感を持って指導に向かうべきである。生徒指導が進路指導や部活動そして学校のカラーに大きく関わっていることも合わせて確認した上で、全職員の協力を得ながら、頑張っていきたい。
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 処分された生徒がいる事に関しては、保護者の努力の足りなさも厳然としてあると思う。先生方の頑張りに保護者も一緒になって取り組むべく、PTAではその視点を強調していく必要がある。
上記に基づいた改善策	生徒が学校(教師)だけでなくPTAや地域からも支えられている、見守られているという感覚を養っていきたい。そのためには、他分掌との連携が必要であり、今までの取り組みを検証し、改善すべき点や更に色濃く継続する点を具体化しなければいけないと感じる。	

重点目標	<p>高校生活への適応と、社会で有用な人材となるための自己意識の形成を図り、組織的な体制のもと、早期における自己の希望進路の決定と実現を目指す。</p>	
現 状	<p>本校生徒は一部に精神的・情緒的発達面で配慮が必要な者や、経済的、教育的に厳しい家庭環境下にある者もいるが、素直に自分や他者を見つめ理解し、自己実現に対して真摯に向かう状況にある。</p>	
具体的な目標	<p>P T：パスカルⅡを効果的に活動できるように全職員が関わる事が出来るよう情報の共有をはかり実践する。 進学：生徒の希望と目標達成に必要な学力が身に付くよう学年、教科と連携を図りながら生徒の実態把握に努める。 就職：1・2年次から自己の職業観の涵養に努める。3年生全員の希望進路実現に向けて支援する。</p>	
目標達成のための方策	<p>P T：各学年、生徒指導、保健、特別活動部と連携して系統的なプログラムを作成し、外部講師を積極的に活用する。パスカルⅡを実践し効果的に運用する。 進学：模試や補習を効果的に活用し、オープンキャンパス、進路ガイダンス、勉強合宿、講演会など計画し生徒に必要な情報を提供する。 就職：インターンシップ等を活用し、勤労観・職業観を養う研修や体験を進める。職員が県内外企業を訪問し求人動向や傾向について適切な情報を提供する。</p>	
具体的な取り組み状況	<p>P T：学年の意見を取り入れながら、学年主導で計画的かつ効果的に実施した。 進学：各種模試や、土曜学習会（基礎学力向上含む）、夏季・冬季補習を通し、学習習慣を身につけさせるように実施した。 就職：就職内定に向けた面接指導を全職員で実施した。職場開拓や情報収集のため県内外企業訪問を実施した。</p>	
達成状況	<p>P T：シラバスを活用し学年の状況に応じて、年間の計画を柔軟に変更しながら実施できた。 進学：秋田大学訪問を実施したことにより、1・2年生の進路意識の高揚に努めた。進路ガイダンスや講演会も実施した。 就職：全職員の協力のもと、面接練習を行った。また、8月下旬の進路セミナーで意識が高まったと思われる。</p>	
自己評価	<p>(評価) B</p>	<p>(根拠) パスカルⅡも軌道に乗り効果が現れつつあるが、基礎学力の定着など継続的に行っていく必要がある。また、1学年からのキャリア教育を計画的に実施していく必要があると感じる。</p>
<p>評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
学校関係者評価と意見	<p>(評価) A</p>	<p>(意見) 1年生でのキャリア教育は大切であるので今後も指導をお願いしたい。他校より先生方の指導は頑張って下さっている。ボランティアなどでの生徒の接し方が良く評価されている。</p>
上記に基づいた改善策	<p>今後ともキャリア教育の充実に努め、生徒が卒業後の自分の進路を明確にかつ具体的に考え判断していく力を身につけさせたい。</p>	

重点目標	「豊かな心」「自主性」の育成と地域連携を目指す。	
現 状	各部とも熱心に活動しており生徒の成長が見られる。中学校との合同練習も増えてきている。生徒会活動では、生徒主導の行事運営が十分定着してきた。ボランティアを通して、地域との繋がりを築いてきている。	
具体的な目標	生徒会：行事の計画・実施にあたって生徒の自主性を生かす指導に努める。 部活動：技術のみの体得ではなく、心を育てる指導に努める。	
目標達成のための方策	生徒会は計画段階から執行部と話し合い、アイデアを活かす。さらには学校行事をホームページ等で紹介・報告し、生徒の活動内容を外部に発信する。 部活動においては、結果だけを求めるのではなく、結果までの過程の中で、集団行動の在り方や素直な心を育てる指導に努める。	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のつどいや壮行会では生徒が司会進行をおこない、校歌指導においても生徒が全て行った。 ・図書視聴覚教育情報部と連携し、部活動の結果やその他ボランティアといった活動をホームページに掲載した。 ・部活動を通して、地域連携や中学校との連携に積極的に取り組んだ。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の指導を通して、挨拶や校内清掃をすすんでしようとする姿が多く見られた。 ・昨年より中学生と合同練習する部活動が増え、中学校との繋がりをより深くさせている。 ・部活動の活躍だけでなく、全県簿記大会での五連覇をはじめ、様々な活動が大きく評価された。 	
自己評価	(評価) A	(根拠) つどいをはじめ多くの行事、部活動を通し、生徒が様々な立場に立って物事を捉え、自主性や主体性を育てている。その成果や内容を、教育情報部と連携し外部に発信できるようになった。地域・小中学校との連携は高まりつつあるが、PTA(保護者)をより多く学校に呼び寄せるといったことに関しては、課題がまだある。
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 部活動等では生徒の目を見張る活躍が目立ち、職員の指導のたまものと思われる。また、生徒の自主的な頑張りが多方面で見られる。
上記に基づいた改善策	<p>生徒の活動をさらに充実させると共に、今後も総務・教育情報部等と連携して地域・保護者にその状況を発信していく。結果、多くの保護者に、学校での活動状況を見たいと思わせるようにする。</p> <p>学校祭における入場者数に関しては、今年度は、中学校の総体期間中の開催であったため、次年度は、中学校の状況を見て開催時期を検討したい。それに伴って地域の方や保護者の方が多く来校して頂ければと考えている。</p>	

重点目標	自らの心身の健康づくりと、よりよい行動を選択する力を育成する。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣が身につけていない生徒がいる。朝食のとり方に課題のある生徒や、歯科検診ではむし歯の保有者が多く、歯肉炎や歯周病予備群の生徒も多い。 ・ 自己肯定感が低くコミュニケーション不足から、望ましい友人関係を築けない生徒がいる。携帯電話の不適切な使用などにより悩みを抱える生徒も多い。 ・ 外清掃の時間がなかなかとれない。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講話や保健指導を通して、自らの健康に関心を持たせ、健康づくりを意識させる。基本的な生活習慣の大切さに気づかせる。 ・ 適切なコミュニケーション能力を身につけさせる。 ・ 自ら学習環境を整える意識を高める。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ パスカルタイムの時間を有効に活用し、スキルアップを図る。 ・ ライフスキルの講話では、保健委員が準備・進行・最後の感想発表まで主導できるようにさせる。 ・ 悩みを抱える生徒に対しては、学年部と連携のうえ各家庭と連絡を密にし、スクールカウンセラーと協力して取り組む。 ・ 学校周辺の環境美化活動を月1回保健委員を中心として実施する。 ・ 汚れている箇所は金曜日の「水拭き」を呼びかける。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ パスカルタイムでは、ライフスキルについての講話を7回実施し、保健委員が進行などすべてを担当した。 ・ 悩みを抱える生徒に対して、学年部と連携しながらカウンセリングを受けさせ心の安定と解決のための支援を行った。 ・ 保健委員による外清掃を6月、10月、11月に行った。 ・ 校内の美化（水飲み場周りを中心に）は毎週月曜日に活動した。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ パスカルタイムの感想からは意識の向上が見られるが、学校生活において急激な変化は見られない。保健委員は進行などを担当したことで貴重な経験となり自信もついたのでないか。 ・ 教室の美化や水拭きはクラスによって取り組み状況に差がある。「水拭き」の呼びかけはもう少し工夫が必要だった。 	
自己評価	(評価) B	(根拠) 保健指導や講話は予定通り実施できたが生活習慣や行動の改善まではつながっていない状態である。環境美化については、保健委員の自主活動を定着させたかったが、なかなか徹底できなかった。
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 心と体のバランスについて重点的に指導して頂いている。周りの整理整頓が集中力に繋がると思うので今後も指導をお願いしたい。
上記に基づいた改善策	授業に集中できる教室環境をつくるため、環境美化についての意識づけと具体的な方法を考えていく。(授業開始前の整頓チェック、「水拭きの日」の曜日変更、保健委員の自主活動の支援など)	

重点目標	図書館利用の推進と教育情報機器の活用システムの確立を図る。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館を利用する生徒や読書を習慣としている生徒が少ない。 ・ メディアルームなどの教育情報機器が古くなってきており、効果的には授業で活用できていない。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ NIE 委員会と協力し、新聞の利用により進路活動と読書活動を結びつけ、読書活動の活性化を図る。 ・ 教育活動全体で効果的に活用できるよう、教育情報機器の整備を図る。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書委員会を活性化し、生徒の視点での購入図書選定を行う。 ・ 授業やLHR、朝学習における読書の時間を計画する。 ・ 新聞や図書のコーナーを作り、生徒が新聞や本を読みやすい環境を作る。 ・ パソコンやプロジェクターなどの教育情報機器の整備をお願いする。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書委員会主催の行事や毎週のカウンター当番など、責任感をもち活動させた。 ・ 生徒の視点での購入図書選定を行った。 ・ 授業やLHR、朝学習における読書の時間を設定した。 ・ 新聞や図書のコーナーを作り、生徒が新聞や本を読みやすい環境づくりを心がけた。 ・ 理科講義室の教育情報機器の整備を行った。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書委員会の活動は活性化されたが、読書率や図書館利用率はあまり上昇していない。 ・ 新聞や図書のコーナーは多くの生徒が利用する购买前に設置することで学年を超えた利用が見られた。特に、3年生の新聞利用が多くなった。 ・ 理科講義室の教育情報機器の整備は行ったが、新しい機器の購入はできなかった。 	
自己評価	(評価) B	(根拠) 新聞の利用による読書活動の活性化については今後も継続して取り組む必要がある。情報機器の整備については新しい機器の整備ができなかったため、事務との相談が必要である。

評価基準

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 新聞と本に触れる機会を作ってくれており、必ずや社会へ出てから役立つ。色々な事に興味関心を持ってほしいので、3年生でのニュース発表などのような機会を全体に広めてほしい。
上記に基づいた改善策	来年度も引き続き、新聞や本に触れる機会を増やしていきたい。また、事務と相談し教育機器の整備を行っていきたい。	

重点目標	授業の改善へとつながる研修等を実施し、教員全体の資質の向上をはかる。	
現 状	授業改善については年に2度の授業参観を実施し、学年部や教科を中心とした研修会を全職員で実施している。また教職員全体の研修会では、特別支援教育や危機管理等についての理解を深めている。	
具体的な目標	より充実した授業研修会や職員研修を企画する。	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・期間を限定しての授業研修会 ・予備校研修会等参加による授業のスキルアップ ・今後の進路指導のための管外先進校視察 ・全教職員対象の研修会の実施 (スマホ・インターネット被害予防について) 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・6月と10、11月に相互授業参観を実施した。 (期間を限定せず学期単位で実施した方がいいという意見あり) ・地歴・理科・英語の教諭(各1名)が代ゼミと河合塾の研修会に参加した。 ・地歴・理科・国語の教諭(各1名)が山形県と宮城県の進学校を視察してきた。 ・全教職員対象の研修会を実施した。 (7月AED, 12月インターネットセーフティ) 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・校外に出かけたり、外部の専門家の話を聞くことで、大いに刺激を受け、資質向上の契機となった。 ・概ね目標は達成できた。 	
自己評価	(評価) B	(根拠) 相互授業参観への取り組みが消極的であった。
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 研修に行くことは刺激も受け大事なこと。相互授業参観は日程を決めず学期ごとに回数を決めてやってみてはどうか。外部に研修に出かけなくても相互授業参観を行うことでレベルも上がっていくと思う。
上記に基づいた改善策	相互授業参観などの研修を引き続き行い、教員全体の資質の向上を図っていく。	

評価領域	Ⅲ① 国語
------	-------

重点目標	基礎的学力の向上と進路希望に応じた表現力への発展を図る。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・国語に対する関心は低くないが、指示を聞きとる力や文章を読み取る力に劣る生徒、自分の考えを言葉にして論理的に表現することが苦手な生徒が多い。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力、思考力、表現力を向上させる。 ・進学試験に対応できる表現力と応用力を身につけさせる。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で語彙のテキストを利用し、計画的・継続的に学習させる。 ・授業における言語活動を重視し、効果的な活動になるよう工夫する。 ・授業での発表の仕方のルール作りを行い、他教科の授業でも活用できるようにさせる。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で語彙のテキストの小テストを計画的に実施し、継続的な学習を行った。 ・効果的な言語活動を取り入れようとし、さまざまな授業形態に挑戦した。 ・授業での発表の仕方のルールを徹底させた。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストにより漢字の読み書きなどの語彙力が少しずつ身につけてきている。 ・言語活動を重視し、ICT の活用など多くの授業形態により、効果的な活動を行うことができた。 ・授業での発表の仕方のルールは徹底できたので、今後は適切に説明する能力の向上を目指す必要がある。 	
自己評価	(評価) B	(根拠) 3年生については目標がおおむね達成できたが、1、2年生についてはルールから発展させて適切に説明する能力の育成を目指し、今後も継続した指導が必要である。
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
校長の評価・意見	小刻みな小テストの実施等、難儀ではあるがかなりの結果が出てくるものと思われる。生徒はその評価が確実に成績に反映されることへの自覚により効果はかなり高まる。 授業におけるルールを通しての生活指導も素晴らしい。今後も継続して欲しい。	
上記に基づいた改善策	今後も小テストや言語活動を重視しつつ、多様な進路に対応した学力の向上を図りたい。また、授業におけるルールから発展し、適切に説明する能力の育成を目指したい。	

重点目標	授業をとおり、思考力や判断力、表現力を身につけさせる。	
現 状	興味や関心を持ち授業に臨む生徒がいる一方で、基礎・基本となる学力が不足している生徒が多い。社会的思考力や表現力が身につけていない。	
具体的な目標	①基礎・基本となる知識を定着させる。 ②多角的なものの見方や考え方、表現力を身につけさせる。 ③生徒が身近に感じ積極的に関わることができる教材を考える。	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元ごとの小テストを実施する。 ・ 家庭学習・週末課題などで、学習に向かう姿勢をつくらせる。 ・ DVDなどの視聴覚教材を用いて、社会的事象に興味を持たせる。 ・ 発問を工夫し、思考力を高めさせるようにする。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テスト・課題（新聞記事集めや長期休業中含め）を実施し、そのあとの個別学習を指導した。 ・ DVDを使用し、興味関心を持たせた。 ・ 史料や地図など視聴覚教材を用いて、思考力や表現力の育成を行った。 	
達成状況	興味関心を高めさせることはできた。基礎となる知識の定着はある程度までは達成された。社会的な思考力や考察までは至っていない。	
自己評価	(評価) B	(根拠) 基礎となる知識の定着はある程度までは達成されているが、表現力や社会的思考力、考察までは至っていない。
評価基準	<p>A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない</p> <p>C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>	
校長の評価・意見	<p>興味関心を持たせたことをいかに知識に、そして知識を思考力のためのパーツとして使わせることにまで昇華させるかが大切である。思考の楽しさを体験させることが鍵のような気がする。教科に関係なく上手な他者の授業から技術を会得することも大切である。</p> <p>達成状況、自己評価まで昨年度とほぼ同じ状況なので、次年度は今年度の自己評価を上手く活用してもらいたい。</p> <p>また、進度の極端な遅れを早めに修正できるかが課題である。</p>	
上記に基づいた改善策	<p>思考の楽しさを体験させることは重要であり、少人数クラスでは全員にしっかり発言を求め意見を交換し合うなど、授業内での工夫をこれからも継続したい。上手な授業者から技術を学び、またテレビ番組や討論会など様々な体験から人の心に訴えることを学び生かすことは教科に関わりなく教師としての生命線であり、研修に努めたい。進度についてはやや遅れを見せた科目もあったが、本校の特色を生かしたテーマ学習や発表学習に重きを置く姿勢を忘れずに回復に努めたい。教材を精選し、科内で意見を出し合い成果があらわれるよう試行錯誤していきたい。</p>	

重点目標	・数学に興味・関心を持たせ、自ら解決する姿勢を高める。	
現 状	全般的に数学に対する苦手意識を持っている生徒が非常に多く、加減乗除の基礎的な計算や分数計算等も確実でない生徒もいる。授業態度が良好で成績が上位の生徒でも、自主的に課題を求め向上しようとする生徒は少ない。	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人を励ましなが、基礎基本を大切にした指導をする。 ・授業改善に努め、説明だけの一方的な授業をしない。 ・成績上位者・下位者それぞれの成績を伸張させる。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の理解度をきちんと把握するため、机間指導をしっかりと行う。 ・小テストや提出課題による指導等をこまめに行い、定期考査前には問題演習の時間を十分に設け、学習事項の習熟を図る。 ・上位層にはレベルの高い内容の課題を適宜与える。 ・下位層には個別補習や土曜学習会等を実施し、対応する。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・相互授業研修により、板書の仕方、発問・指示の仕方等について全員が授業力向上を目指した。 ・全てのクラスにおいて週末課題等を課し、基礎学力の定着と伸長を目指した。提出率も良好である。 ・土曜補習、定期考査前補習等でA B組では主として下位層に対して対応し、欠点者数も少なくなった。C組では勉強合宿や土曜補習、長期休業中の補習や放課後補習等を通して学力向上を目指した。 	
達成状況	・可能な限り一人一人の学力差に応じた対応が達成できたと思われる。	
自己評価	(評価) A	(根拠) 数学に対する苦手意識が強い生徒が多い中で、上位者から下位者までそれぞれ対応できたと思われる。
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
校長の評価・意見	上位層から下位層まで手厚い指導がなされている。小テストの評価がきちんとなされていることが生徒に伝われば家庭での学習がさらに身についてくるものと考えられる。上位層から下位層まで、今まで以上にさらに、解く喜びを体験させて欲しい。	
上記に基づいた改善策	数学科としての指導の方針・方策を保護者へ伝える良い方法を、考えたい。また、数学の楽しみを生徒に伝えるため、今まで以上に教員の自己研鑽が必要である。	

評価領域	Ⅲ④ 理科
------	-------

重点目標	創意工夫をこらし生徒の学習意欲を高め、基礎学力を定着させる。		
現 状	科学的な現象に対して興味関心は高く、実験実習等には積極的に取り組む状況だが、理論的に筋道を立てて考える力が不足している。また、基礎学力にばらつきがあり、基本的な計算でつまずいてしまう生徒も多い。特進コースでは理系の国公立大学への進学のため、理科を重点的に学びたい生徒もおり、個別対応に追われている。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習事項の理解と、基礎基本の定着を図る。 ・身近な現象を科学的に分析する習慣を身につけ、思考力の養成を目指す。 ・進路希望達成に向けて自主的に学習する習慣を身につけさせる。 ・新教育課程の科目の科学に対する興味関心を高めるような教材研究と受験対応の工夫。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめプリントを活用し、基礎基本を確認させる。 ・到達目標を提示し、小テスト等で確認し、生徒同士でつまずきの原因などを学び合う時間を設ける。 ・学習意欲向上のため、実験・観察を多く実施し、DVD教材の活用も工夫する。 		
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめプリントの活用 ・小テストを実施し、合格点に達するまで繰り返し実施 ・小グループによる実験、まとめ、発表 ・身近な題材を活用した実験の実施 ・進学希望者の放課後補習 		
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・実験実施により、興味関心は高まっている。 ・小テストの実施で家庭における学習時間が増えた。 ・消極的な生徒もグループ学習により、自分の意見をグループ内で発信することができ、授業への集中力が高まった。 ・放課後の補習実施で単位数不足を補った。 		
自己評価	<table border="1"> <tr> <td>(評価) B</td> <td>(根拠) 関心を高め、授業に集中・家庭学習時間の確保はおおむね達成できたが、前年度の学習事項の忘却により、積み重ねができず、成績が低迷している生徒への対応が課題である。</td> </tr> </table>	(評価) B	(根拠) 関心を高め、授業に集中・家庭学習時間の確保はおおむね達成できたが、前年度の学習事項の忘却により、積み重ねができず、成績が低迷している生徒への対応が課題である。
(評価) B	(根拠) 関心を高め、授業に集中・家庭学習時間の確保はおおむね達成できたが、前年度の学習事項の忘却により、積み重ねができず、成績が低迷している生徒への対応が課題である。		
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
校長の評価・意見	理科の基本である実験を通じた結果に対する考察はよく努力されている。単発的な知識の習得から、知識の有機的なつながりを意識した授業の実施が課題と思われる。知識の組み立て方は生徒の自主性に任せても難しいと思われ、授業の組み立てから考えなければならない。		
上記に基づいた改善策	年間指導計画の中で単元間のつながりを確認し、授業の組み立てに反映させる。他教科との連携も取り入れる。		

重点目標	自らの健康を適切に管理し、基礎体力を向上させる。	
現 状	男女とも共通して運動の得意な生徒と苦手な生徒の二極化がはっきりしている。特に女子の中に苦手意識の強い生徒が積極的に活動できずに、消極的になってしまう生徒が多い。	
具体的な目標	・運動することの楽しさを味わわせ、基礎体力の向上を図る。	
目標達成のための方策	・各運動種目に繋がる動きを取り入れた体づくり運動の実施。 ・個人の能力に応じた選択種目の実施と役割分担。 ・グループ分けを工夫して、技能レベルに合った活動を工夫する。	
具体的な取り組み状況	・筋力・柔軟性を高める体づくり運動を実施する。 ・2・3年生の選択種目では、一定期間取り組ませることで技術の向上を図る。 ・グループで活動する機会を設定し、より多くの仲間と交流しながら活動する。	
達成状況	・二人一組による柔軟体操を毎時間欠かさず実施した。体づくり運動を学期の節目に組み入れて実施した。 ・一定の種目に時間をかけて取り組ませることで、技術の向上とともに意欲的に取り組む姿が見られた。 ・クラスの垣根を越えて、さまざまな仲間とグループを組み、交流を図りながら活動に取り組んだ。協力し合う姿が見られた。	
自己評価	(評価) B	(根拠) 規律を重んじて指導してきたので挨拶など行動にめりはりができ、一定の効果は得られた。さらに教室での授業にも成果が現れるレベルまで押し上げていきたい。また、より多くの仲間とともに活動し、運動することの楽しさを感じてくれたのではないか。生涯を通じて運動に親しむ資質を醸成していきたい。
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
校長の評価・意見	運動に対して得意な生徒が不得意な生徒の面倒を見ながらの授業風景は素晴らしいものがある。また、授業を通じた生活指導もしっかりとなされている。この良い雰囲気の状態をさらに推し進めてもらいたい。 保健の座学も教材研究がしっかりとされており、良く整理された授業内容である。	
上記に基づいた改善策	昨年度の反省にあったバスケットボールにおける怪我が多かったことを受け、今年度は特に注意して授業を実施した。それでも数名の怪我が発生してしまった。教科として、生涯を通じて規律や基本的な生活習慣の定着を図るために、体育と保健の授業を充実させたい。	

評価領域	Ⅲ⑥ 芸術
------	-------

重点目標	主体的な表現を引き出す。	
現 状	題材に興味・関心を示す生徒は多い。表現力の乏しさはあるが、毎時間の積み重ねにより技術面等のレベルは上がり、自己表現を楽しむことはできている。	
具体的な目標	自己表現の積み重ねにより、表現することの喜びを味わわせるとともに表現力の向上をめざし、主体性を引き出す。	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や他教科との関連を考慮した題材選定に努め、学習成果をあらゆる場面で実感できるようにする。 ・毎時間の自己表現を振り返らせ、次時の課題を見つけ出す時間を設定する。 ・発表の場を増やし、表現意欲の向上をめざす。 ・外部講師（地域に根ざした芸術活動に取り組まれている方など）の活用を検討する。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスコンサートや作品発表の場など、日頃の学習の成果を披露し相互に鑑賞し合う場を設けた。 ・毎時間学習シートを活用し毎時間の振り返りをさせ、生徒自身に課題を見つけさせている。 ・外部講師の活用については、音楽・美術共に実施できた。 	
達成状況	表現力の乏しさはあるが、学習の積み重ねにより少しずつ技術面でのレベルを上げ、自己表現を楽しむことができている。その成果を披露し、周囲から様々な評価が得られることも意欲の向上につながっている。外部講師による講話にも素直に耳を傾け、日本の芸術の歴史や特質を味わい、地域のデザインにも興味をもつことができた。	
自己評価	(評価) B	(根拠) 年来検討していた外部講師の活用を音楽・美術共に実現できた。見聞を広め、生徒達はさらに意欲的に学習に取り組む、表現を楽しんでいる。芸術を愛好する心情を育てることもつなげられたと実感している。より主体的な表現を引き出すために今後も題材の選定・研究を継続したい。
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
校長の評価・意見	外部講師など幅広い活用を試みることは、生徒に多様な場面の経験を与えることであり、今後ともお願いしたい。美術部、吹奏楽部の部活動以外の生徒に関して、感受性の育成と共に生涯教育としての芸術にいかに関係していくかが今後の課題と思われる。	
上記に基づいた改善策	これからも外部講師を活用し、様々な題材の専門的な部分を生徒に見せ、聞かせ、考えさせたいと考える。専門部以外の生徒においては、授業内での作品や演奏を発表できる場をつくり、表現することの喜びを感じさせ、生涯にわたって芸術を愛する心情を形成していきたい。	

評価領域	Ⅲ⑦ 英語
------	-------

重点目標	基本的事項の徹底を図り、学力の伸長に努めるとともに、コミュニケーションを重視した授業を工夫する。	
現 状	中学校で既習済みの事項・語彙力が不足している生徒が大半である。	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着のために、授業改善や家庭学習の習慣化を心がける。 ・すべての科目でコミュニケーションを重視した授業を展開する。 ・英検や模擬試験を効果的に活用し、進学にも対応できる力を養う。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の仕方を具体的に提示する。 ・語彙力強化のための単語・構文テストを実施する。また、低学年では週に1度基礎的な文法を学ぶ授業を設けるなど工夫する。 ・プリントの共有化、科内の意思統一、情報交換を積極的に行う。 ・授業の中で生徒が積極的に言語活動ができる場面を増やす。 ・朝学習・土曜学習・補習・添削指導等を利用し、英検対策や進学対策を進めていく。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年でスピーキングテストを実施し、多角的に生徒を評価した。 ・本校で作成した can-do リストをもとに、計画的に指導した。 ・単語、構文テストを週に1回実施し、基礎力定着を図った。 ・担当学年の枠を超え、全員で朝学習や土曜学習、補習を分担した。 ・ALTの協力を得るなど、生徒の英語を使用する場面を増やした。 ・ICT活用研究授業を始め、普段の授業でもお互いに授業を参観し、授業改善に努めた。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・科会を通し、情報交換などを積極的に行うことはできたが、プリントの共有化、授業の進度の調整についてはまだ課題が残る。 ・目的意識をはっきり持ち、自分で勉強できる生徒が少しではあるが、増えてきている。 ・単語、構文テスト、スピーキングテストでは生徒の意識、取り組みに差があり、それがはっきり結果として現れている。 	
自己評価	(評価) B	(根拠) 基礎力の定着にはまだ時間を要する。家庭学習への取り組みは不十分だと感じる。根気強い指導が必要である。
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
校長の評価・意見	人事面でスピーキングテストに関して御迷惑・御難儀をおかけしてしまった。 can-do リストを基に生徒の到達度の到達度のチェックを今後ともしっかりお願いしたい。同一科目の場合でかつ授業水準が同じ場合、使用プリントの共有や、授業の進め方等統一性を図ってほしい。	
上記に基づいた改善策	「話すこと」の指導や評価方法について研究を重ね、即興で話す力を養っていききたい。can-do リストを生徒にも配布し、指導方針を明確にしていききたい。 同一科目で複数の教員が担当する場合は主担当を決め、主担当が働きかけて連携を密にし、プリントの共有や授業のやり方の統一を図るようにしていきたい。	

重点目標	生徒が主体的に取り組めるようなわかる授業を目指し、実践的な知識と技術の向上を図る。	
現 状	家庭科に関する興味・関心はあるが、生活経験が乏しいため知識や技術が少なく、実践的な能力には個人差がある。また、発表・行動することを苦手とする生徒や言葉による説明だけでは実習の手順を理解できない生徒も多い。	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己選択・自己決定する意欲を喚起させる。 ・他と関わり合う中で、自分の意思や価値観を相互に共有できるよう支援する。 ・生徒が積極的に発言する授業づくりを目指す。 ・学んだ知識や技術を実生活に活かそうとする態度を養う。 ・福祉コースが全員受験する食物検定（2・3級）で80%以上の合格率を目指す。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見や考えを言葉で表現できるよう、文章記述を含んだ学習プリントを構成する。 ・生徒同士が互いに学び合えるよう話し合いや活動する時間を設ける。 ・視聴覚教材の活用や開発、実物や見本作品の提示などを行う。 ・検定受験に際して、チームティーチングにより個々の生徒に応じた指導を徹底する。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の展開や学習プリントの構成を工夫し、自分の意見や考えを表現したり発表したりする活動を多く設けた。 ・グループ活動が活発になるよう、形態やツールを工夫した。 ・調理実習では、チームティーチングにより、生徒に目が行き届くようにし、技術の定着に結び付けられるようにした。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なツールを用いながら自分の考えを表現できるようになってきた。 ・他の考えを受容したり、自らの考えを深めたりと学び合う姿が見られた。 ・検定ではチームティーチングの活用により個々の生徒が理解を深め、前期は4級で3名の不合格者が出たが後期で合格することができた。また、2級受験者12名、3級受験者14名が全員合格することができた。1級についても2名が受検・合格することができた。 	
自己評価	(評価) B	(根拠) 検定については目標達成でき、生徒の学ぶ意欲も高まってきたと感じる。しかし、全ての単元において望ましい生徒の活動が見られたわけではなく、今後も段階的な指導が必要である。
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
校長の評価・意見	検定1級の複数合格及び、不合格者の再受験による合格は普段の手厚い指導の結果である。 目標達成のための方策等において、前年度までのもの踏襲だけでなく一つでも二つでも新鮮な考えで変化を持たせる意味でも考えていただきたい。	
上記に基づいた改善策	生徒の実態や興味関心に応じた学習内容や指導方法を取り入れ、知識と技術をよりしっかりと生徒に定着させられるようにしたい。	

重点目標	ビジネス社会に必要な心構えと基礎的・基本的な知識と技術を確実に習得させる指導法の研究。	
現 状	3年生は昨年度学習した基礎的知識を生かし、簿記やビジネス計算など、より上級の資格にチャレンジしている。2年生は初めて商業科目を学ぶということで興味を示し意欲的に取り組んでいる。	
具体的な目標	ワープロや電卓の基礎基本を確実に習得させ、各検定で2級60%、3級80%以上の合格率を目指す。また、積極的に上級資格にもチャレンジさせる。	
目標達成のための方策	生徒個々の不得意分野を把握させ、ワープロや電卓のスキルアップを図るため実習の時間を多くとる。 理解するまで何度も練習問題に取り組みさせる。 單元ごとに小テストを実施する。	
具体的な取り組み目標	評価表を作成し練習問題ごとに自己評価をして自己の不得意分野を把握し、克服する。 上級資格にも積極的に挑戦させる。 模擬問題を活用し、何度も継続的に取り組みさせる。	
達成状況	目標としていた検定結果は2級 77.42 % (106/137)、3級 91.6 % (208/227)と目標と達成できた。 秋田県普通高校簿記実務競技大会5連覇。3種目全てで個人優勝	
自己評価	(評価) A	(根拠) 検定の結果については満足している。2級、3級は目標を上回る結果であったとともに、1級の合格率も99.2%と成果を上げた。簿記大会は授業と放課後勉強会の成果が十分に出た大会であった。
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
校長の評価・意見	達成状況において検定1級合格者データが記載されていないが、何名か明記して欲しい。年度初めの検定における具体的達成目標は昨年度より5%～15%程下げていたが、結果的に2級は昨年度を大きく5%以上上回っており、また、1級合格率も99.2%と画期的であり、指導の賜物である。	
上記に基づいた改善策	1級においてはビジネス文書4名、電卓の普通計算部門33名が合格した。今後も生徒に更に上級の資格にチャレンジさせ合格することの喜びを感じてもらい、勉強することの楽しさを教えたい。	

重点目標	情報活用能力の育成、および、実践力を身に付けさせる授業の研究。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文書処理ソフト、表計算ソフト、電子メール、情報検索と情報発信、情報モラルの5つを中心に授業を行っているが、コンピュータの活用状況に個人差が大きく個別指導が必要である。 ・ 情報モラルの低下が問題となっているため様々な活動を通じてモラルの向上と実践力を高める。 	
具体的な目標	アプリケーションの基本操作の習得やインターネット上の情報検索の適切な仕方について身に付けさせる。さらに、情報処理検定の合格率を65%以上とする。	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワードソフト、表計算ソフトの使用を授業に出来るだけ多く取り入れ徹底的に力を付けさせる。 ・ 模擬問題を繰り返しおこない、操作方法の定着をはかる。 ・ 個別指導を充実させることにより個人のレベルの向上に努める。 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技中心に偏らないよう、座学を取り入れながら授業を行い、テスト対策や検定対策の時間も作るようにした。 ・ Excelソフトでは、関数を適切に使えるよう、模擬問題を使って実技学習を多く取り入れた。また、モラルに関しては視覚で効率よく学習できるよう、動画を用いた教材を元に取り組んだ。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一太郎での文字入力や表作成、Excelでの計算やグラフ作成がスムーズにできるようになった。また、インターネット検索も基本的な操作ができ、パソコンはスムーズに行える知識の定着が図れた。 	
自己評価	(評価) B	(根拠) ワードソフト、表計算ソフト、インターネット検索に関しては基本操作の定着が図れたが、情報処理検定がこれから行われるため、目標の合格率等は今後の結果を見て判断していきたい。
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
校長の評価・意見	基本ソフトに関する技術的操作能力の育成は今日、必須のものであり、御難儀をおかけしている。欲を言えば、今は遅くともかまわないので、キー操作でブラインドタッチが出来るようにしてもらいたい。 検定の合格率は一年遅れでもしょうがないが、明記してもらいたい。また、分かった時点で教えていただきたい。	
上記に基づいた改善策	ブラインドタッチは各クラス3割程できるようになってきた。2年次にビジネスコース選択生徒に対しては、残り数時間をワープロの入力練習をし、ブラインドタッチの一層の習熟を図る。また、情報処理検定の合格率は、昨年度より7%下がり40%だった。合格率低下の一つの要因は問題傾向が大きく変わったことにある。来年度は合格率UPのために受験準備計画を前倒し、練習に取りかかりたいと考えている。	